

金融政策の国際協調

—「新しい開放マクロ経済学」からの展望—

日本銀行 藤原一平

本報告では、まず、現在中央銀行等で標準モデルとして用いられている『ニュー・ケインジアン・モデル』の概要を示す。次に、ニュー・ケインジアン・モデルの開放経済への拡張モデルとして解釈される『新しい開放マクロ経済学モデル』について解説する。

新しい開放マクロ経済学モデルは、マンデル・フレミング・モデルとは異なり、効用・利潤最大化に基づくミクロ的な基盤を有するモデルであるため、金融政策の国際協調の有効性といった政策分析を厳密に行うことが可能となる。このため、モデルが提示する国際金融政策協調のあり方について、「どのようなケースで協調が必要になるのか?」といった点に着目しながら紹介する。最後に、新しい開放マクロ経済学モデルの仮定（国際金融市場の完備性など）について、その現実妥当性を検討しながら、今後の可能性について展望する。